



校長室だより

校長 山崎 聡子

1年生を迎える会

4月20日(木)、1年生を迎える会を行いました。1年生より一足先に体育館に待機していた2年生。どのクラスも静かに1年生の入場を待つことができている、立派な姿に感心しました。1年生の歩調に合わせたり、背中にそっと手を添えたりして、6年生が1年生に優しく寄り添いながら入場してくる姿がすてきでした。3年生から5年生は、教室でリモートで参加し、全校で1年生を迎えました。

児童会会長の長田和花さんの「1年生のみなさん、相武台東小学校へようこそ。私たちは1年生が来るのをとても楽しみに待っていました。」という歓迎の言葉から始まり、「相武台東小学校全員で1年生を迎え、相武台東小学校のことをたくさん1年生が知ることができる楽しい会にしましょう。」という温かな言葉を全校に投げかけ、会がスタートしました。2年生が、1年生の時に育てた朝顔の種を1年生にプレゼントし、ありがとうの花の歌を歌ってくれました。1年生からも、言葉と歌で、お礼を伝えてくれました。その後児童会による〇×クイズを行いました。学校の中のことがよく分かるようにと、クイズを考えてくれました。みんなで楽しく学校のことを知ることができました。

昨年度1年生だった2年生の成長、最高学年としての6年生の頼もしく優しい姿、1年生のことを考えた児童会の人たちの企画等、1年生をみんなで迎えるという活動が、子供たちのもつすてきな姿をさらに引き出すことに繋がったすばらしい時間となりました。

子供たちを幸せにするには・・・

市内小学校の全教職員が集う学びの場として、座間市小学校教育研究会主催の教育講演会が毎年開催されます。今年は、4月19日(水)に、慶應義塾大学大学院教授の前野隆司先生に「幸せに生きる子を育てよう」という演題で、御講演いただきました。前野先生はアンケート調査をベースとする心理学・統計学の結果をまとめ、幸福学の研究をなさっておられ、私たちの心に幸せを運んでくれるものとして、4つの因子があると教えてくださいました。「やってみよう因子」：自己実現と成長の因子・「ありがとう因子」：つながりと感謝・「なんとかなる因子」：前向きと楽観性・「ありのまま因子」：孤立と自分らしさの4つです。この中で、私の心に残り、特に大切にしていきたいと思った因子は「ありがとう因子」です。人は一人では生きていくことができず、繋がりの中で生きていくものであること、その中で、感謝することが人を幸せにするというものです。繋がりの中で、感じる温かな心と心の触れ合いが、安心感を生み出し、それがあからこそ、前に進んでいったり、力を発揮できたりすると考えます。そして、日々の生活の中で感謝することを見つけることで、自分の心が豊かになる…。それは減ることがなく、心が満たされていくことに繋がっていくのではないかと思います。

前野先生は子供に幸せになってもらいたいならば、大人がまず幸せになることが大切なことであるとお話くださいました。その言葉が心に迫りました。「つながりと感謝」を大切にしていって日々過ごしていきたいと思っています。